

# アウクスブルク市滞在記

原田 伊織

## 1日目:出発とホストファミリーとの 出会い

2024年9月7日、待ちに待ったアウクスブルク市への旅が始まりました。

5月の団員選出以降、9回の研修で学んできたドイツ語や文化、尼崎市の歴史を胸に、いよいよ出発の日を迎えました。

ドバイ経由で約1日をかけてミュンヘン空港に到着。到着後すぐに、ホストファミリーとの対面式が行われました。

事前のメールでのやり取りがうまくいかなかったこともあり、実際に会うまではどんな方々なのか不安がありました。緊張していた私を、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれました。

その夜は、初めてのドイツ料理を囲みながらホストファミリーとほっこりする時間を過ごしたあと、オクトーバーフェストのアウクスブルク市版のようなお祭りに参加しました。



(地域のお祭り：ほとんどの人が伝統衣装を着ていました)

## 2日目:姉妹都市提携ゆかりの地巡り

この日は、姉妹都市提携に関わる重要な地を巡りました。

ディーゼル記念石庭苑では、山岡孫吉氏の寄贈した庭の近くに尼崎市寄贈の石碑もあり、どちらも整備の行き届いた美しい庭に感動しました。

市内にある「Amagasaki-Allee (尼崎通り)」は、ショッピングモールにも「尼崎通りはこちら」と掲示されているのを発見し、尼崎市とアウクスブルク市の日常的な繋がりを実感しました。

また、植物園内の日本庭園は広々としており、異国で日本の風情を感じる貴重なひとときでした。特に、日本庭園の手入れに尼崎市の方が関わっていると伺い、多様な分野での交流を知りました。

さらに、世界最古の社会住宅街フッガーライの視察では、今も住んでいる方と出会うなど、住民一人ひとりの生活が垣間見えました。

## 3日目:市長表敬訪問と伝統衣装体験

アウクスブルク副市長への表敬訪問がこの日のメインイベントでした。豪華なロココホールで行われた式典では、芳名帳に署名するという貴重な経験をさせていただきました。

その後、ドイツの伝統衣装をまとい記念撮影を行いました。重みのある衣装を身につけると、当時の庶民や貴族の生活に思いを馳せることができました。

この経験を通じて、アウクスブルク市の文化の一端に触れることができたと感じました。



#### 4日目：フュッセンへの遠足

フュッセンでは、トレッキングコースを歩き、アルプスの大自然に心を癒されました。

その後、世界遺産に登録されているノイシュヴァンシュタイン城を訪問しました。

人生初めてのヨーロッパのお城の豪華な内部装飾に圧倒され、一つひとつの調度品から国王ルードヴィッヒ二世の考え方や生き様を感じることができました。お城から15分ほど歩いた先の橋から見る城の全景はまるで絵画のようでした。

この日一日で、自然と歴史が織り成す美しさを存分に堪能しました。



#### 5日目：平和学習と教育の視察

この日は、平和学習として「Halle 116」を訪問しました。ガイドの説明を聞きながら、戦争の悲惨さと、それを忘れずに伝え続けることの大切さを学びました。

当時の施設がそのまま残っており、「この場所に何千人も収容されていたのか…」と思うと改めて当時の過酷な状況を感じました。

午後にはアウクスブルク大学を訪れ、現地の学生との交流や教育の取り組みを視察し、ドイツの教育制度がいかに学生の自立心を育むものかを知ることができました。

また、テクスタイル博物館でのワークショップや、サッカースタジアム WWK アリーナの見学では、地域に根付く文化やスポーツの重要性を学ぶことができました。

#### 6日目：送別会と水道施設の視察

この日の午前中は、世界遺産に登録されている水道施設を視察し、アウクスブルクの水資源管理の歴史を学びました。

そして午後には、今回の訪問のもう一つのハイライトである送別会が開かれました。

私たちは尼崎の魅力を伝える動画を披露し、それに関連するクイズ大会を開催しました。動画の進行にハプニングがありましたが、心強い団員たちのアドリブパフォーマンスもあり、無事に乗り越えることができました。

この場でアウクスブルク市の方、領事館の方、これまで両市の交流にご尽力されてきた方、今回の訪問団団長など、関係者の両市への想いを聞き、自分自身にとって国際交流の重要性を感じたことが何よりも心

に残っています。

## 7日目：ホストファミリーとの時間

滞在最後の日はホストファミリーとの時間を満喫しました。

私が思うドイツといえば、ボードゲームということで、地元のボードゲームショップや、趣味であるスケボーのショップに行き、午後はミュンヘンでマジックショーを楽しみました。

この日の朝からドイツの伝統料理を振る舞ってくれたり、私の行きたい場所を全部回れるようにと予定を組んでくれたりと、ホストファミリーのおもてなしと、家族のように温かく接してくれた時間は、私の中で忘れられない思い出となりました。



(写真左：店員、右：ホストファザー | 地元のボードゲームショップでもおもてなしを受けました。)

## 滞在を終えて

一週間の滞在を終えて、日本に帰国しました。この旅で得た経験は、異なる文化への理解を深める重要性や、国際交流の意義を実感する貴重な機会となりました。

この経験を糧に、私はこれからも国際交流に関わり、次世代へと繋げていく活動に積極的に取り組んでいきたいと思います。